



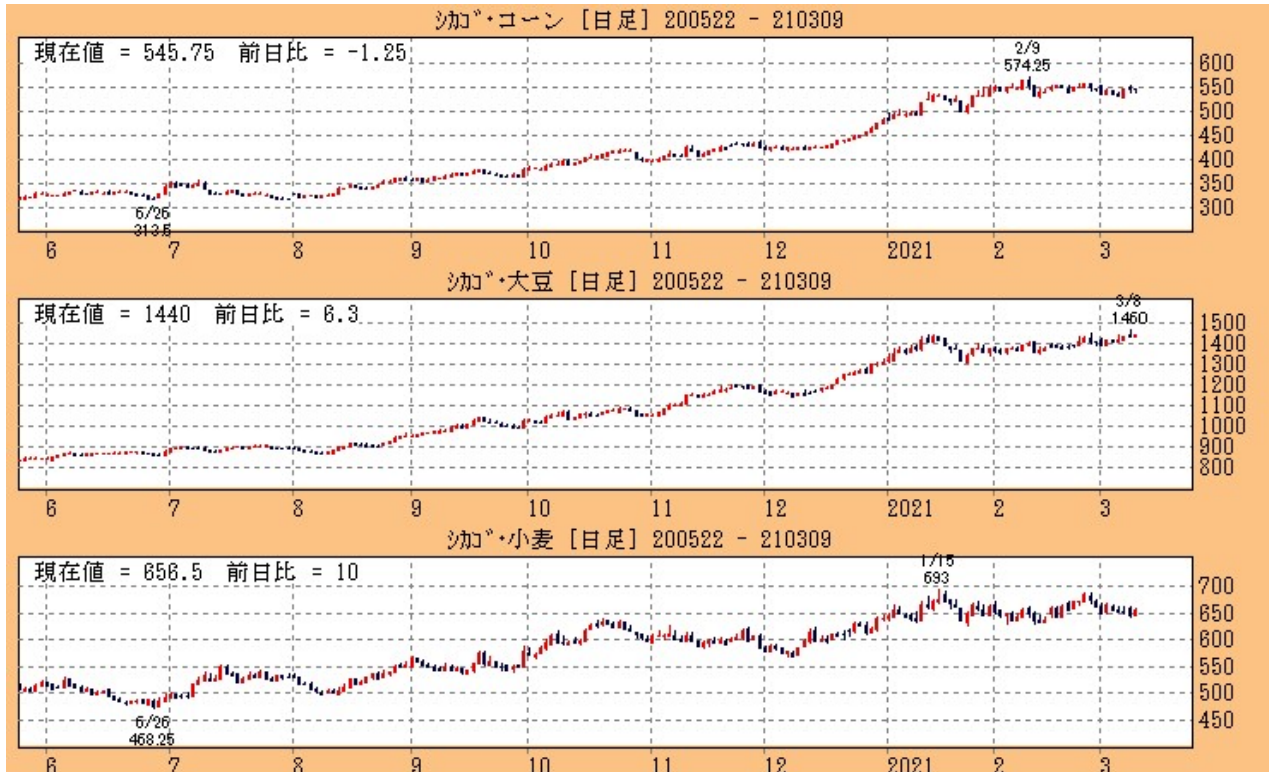
週刊穀物



世界の穀物情報がここに凝縮されています。
毎週水曜日夕方発行

トウモロコシ、大豆は反発

発行日 : 2021/3/11



2日のシカゴトウモロコシ5月限は前日比+6.75セント高の545.00セントと反発。取引レンジは531.50セント～548.50セント。一時、先月11日以来の安値水準まで下落したが、切り返した。アルゼンチンの高温で乾燥した天候に対する懸念が高まったことによる南米の供給不安に加えて、米国の冬小麦の作柄悪化を受けてシカゴ小麦が急反発したことで、コーンの作付遅れも連想されたことで買いが優勢となった。また、米農務省が日本向けに大口成約があったと発表したことも支援要因。

2日のシカゴ大豆5月限は前日比+21.25セント高の1412.50セントと反発。取引レンジは1380.75セント～1416.50セント。先週、米国の需給懸念を背景に1445.75セントまで上昇し、2014年6月以来の高値を付けており、修正安の動きが引き続き見られ、時間外取引で1380.75セントの安値を付けたが、2月26日以来の水準まで下押されたことで売り一巡感が強まったほか、他商品の安値からの切り返しを好材料にして大豆も大きく買い直された。また、多雨の続くブラジルでの収穫遅れ懸念が手掛かりとなって上げ幅を拡大した。ドル安も買い安心感につながっていたもよう。

2日のシカゴ小麦5月限は前日比+16.00セント高の666.25セントと大幅反発。取引レンジは645.50セント～668.75セント。米農務省が1日に公表した週間の作柄報告が主産地で軒並み悪化し、供給懸念が台頭したことから買いが優勢となった。一時、先月18日以来の安値を付けたが、これまでの下落の後で売り一巡感が強まったこともあり買い戻された。



TOPICs Outlook for U.S. Agricultural Trade by USDA 2月5日

大豆の輸出は過去最高

2021年度 米国の輸出は+50億ドル増の1,570億ドル、輸入は1,375億ドル。

2021年度の米国の農産物輸出は、油糧種子と穀物の輸出見通しの増加が牽引し、11月の予想から+50億ドル増の1,570億ドルと予想している。大豆の輸出は、中国からの旺盛な需要と価格の上昇により、+11億ドル増の274億ドルと過去最高を予想している。

大豆粕の輸出は+7億ドル増、油糧種子と製品の輸出合計は前回予想から+20億ドル増の383億ドルと過去最高を更新すると予想されている。

トウモロコシの輸出は、数量がわずかに減少したものの、単価の上昇によって相殺され、+8億ドルの増加となると予想されている。

小麦の輸出は、単価の上昇により+7億ドル増の69億ドルと予想。

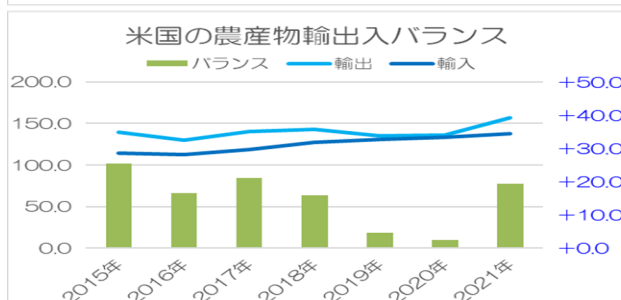
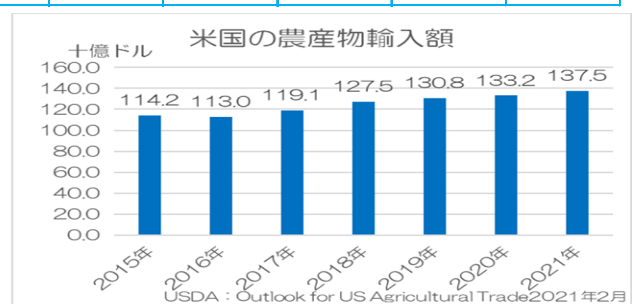
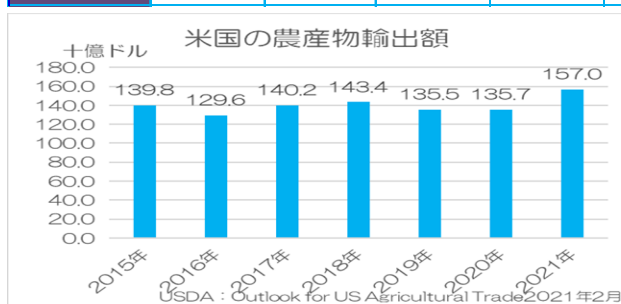
穀物・飼料全体の輸出額は378億ドルと予想され、11月の予想を22億ドル上回った。綿花の輸出は、金額と数量の増加により6億ドル増と予想される。畜産、乳製品、家禽類の輸出は、牛肉と家禽類の輸出予測の増加が乳製品の減少を上回るため、+3億ドル増の326億ドルになると予測されている。

園芸製品の輸出は横ばいの345億ドルと予測されている。

中国向けの輸出は、第1四半期の出荷が好調で、トウモロコシを中心とした販売が急増していることから、11月の予想から+45億ドル増の315億ドルとなり、過去最高を更新すると予想されている。中国は2021年度も最大の米国農業市場であり、カナダ、メキシコに続くと予想されている。2021年度の米国の農産物輸入額は1,375億ドルと予測され、前年比5億ドル増となる。11月の予想は、家畜・乳製品・鶏肉の輸入増加を主因に、前年同月比では、+1.5%増の1,000億円となる見込み。本レポートの予測は、2月9日に開催された世界経済フォーラムでの発表時に有効な政策に基づいている。

TOPICs

+億ドル	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	前年比	2021年予想		2月の前年比
								11月	2月	
輸出	139.8	129.6	140.2	143.4	135.5	135.7	+0.2	152.0	157.0	+21.3
輸入	114.2	113.0	119.1	127.5	130.8	133.2	+2.4	137.0	137.5	+4.3
バランス	+25.5	+16.6	+21.1	+15.9	+4.7	+2.5		+15.0	+19.5	





米国と世界各国の経済見通し

2021年度の経済活動は増加すると予想されている。経済救済プログラムとワクチン接種の成功が、2021年度の成長率と回復の程度を形作ると予想される。いくつかの新しいウイルスの亜種が、経済の長期的な後退を懸念しているが、ワクチンの普及は、さらなる経済の混乱に対する緩衝材を提供する可能性を持っている。

世界の国内総生産（GDP）は2021年度に+5.5%の成長が見込まれている。パンデミックの抑制、消費者の信頼回復、消費水準の向上は成長を促進するために不可欠である。2020年度に約▲3.5%という世界のGDPの急落は、世界市場に実質的なショックをもたらしたが、これは世界中の中央銀行や政府が展開した財政政策や金融政策によって制限された。米国経済は2020年度に▲3.5%縮小し、2021年度の予測成長率は前回の+3.1%から+4.0%に上方修正された。ユーロ圏経済は2020年度に▲5.1%の減少となり、大幅な減少となったが、前回予想の▲8.3%よりは改善している。しかし、サービス部門に依存する先進国経済がパンデミックによる継続的な課題に直面していることから、ユーロ圏の2021年度の成長率予測は5.2%から4.5%に引き下げられている。ユーロ圏の最新の2020年度第4四半期の統計では、加盟国の経済が前四半期に比べて縮小したことが示された。

米国をはじめとする多くの先進国の個人貯蓄率は依然としてパンデミック前の水準を上回っており、パンデミックが収まり、経済が完全に再開されれば、保留されていた消費者需要が放出されるのではないかという期待感が生まれている。カナダの2021年度の成長率は5.2%から3.6%に下方修正されている。メキシコの予測成長率は2.2%から4.3%に上方修正されている。ラテンアメリカ・カリブ諸国の実質GDPは、2020年度には▲7.4%減少し、2021年度には+4.1%の成長率でリバウンドすると予想されている。ブラジルのGDPは、2020年度に▲4.5%の縮小を記録した後、2021年度には+3.3%の成長を遂げると予測されている。

新興国市場と新興国経済は2021年度に+6.3%の成長が見込まれる2020年度に▲2.4%に縮小した後 成長期待を上回り、2020年度のGDP成長率は+2.3%、中国の予測成長率は2021年度には+8.1%に達すると予想されている。中国の

為替レートの影響

	実質為替レート		一人当たり実質GDP成長率		21年度前回予想	世界のシェア		米国産農産物の輸出シェア
	2020年度	2021年度	2020年度	2021年度		GDP	人口	
世界	+3.1	▲1.2	▲4.4	+5.5	+4.0			
北米	+7.4	▲3.4	▲4.9	+5.1	+3.3	27.4	6.6	28.9
米国			-4.3	4.0	3.1	23.9	4.4	
カナダ	+1.5	+3.5	▲7.1	+3.6	+5.2	2.0	0.5	15.5
メキシコ	+10.0	▲3.3	▲9.0	+4.3	+3.5	1.5	1.7	13.4
新興市場	+2.9	▲5.7	▲3.1	+6.3	+5.8	24.8	44.3	13.1
ブラジル	+28.5	▲0.5	▲5.8	+3.3	+2.8	2.2	2.8	0.5
ロシア	+9.4	▲3.2	▲4.1	+3.0	+2.8	1.7	1.9	0.1
インド	▲0.1	▲0.9	▲10.3	+6.9	+8.8	3.2	17.4	1.0
インドネシア	+2.3	▲4.5	▲1.5	+2.9	+6.1	1.2	3.5	2.2
中国	▲1.3	▲6.7	+1.9	+8.1	+8.2	16.5	18.6	0.3
欧州中央アジア	▲1.5	▲1.4	▲8.9	+3.2	+3.6	25.5	11.2	8.8
EU	▲0.3	▲0.7	▲8.3	+4.5	+5.2	14.5	4.5	8.2
ウクライナ	+2.8	+0.9	▲7.2	+2.6	+3.0	0.1	0.6	0.3
トルコ	+11.4	▲6.2	▲5.0	+3.8	+5.0	1.2	1.1	1.0
アジア太平洋	+0.9	▲0.5	▲4.1	+2.2	+2.4	34.8	54.5	43.8
日本	▲0.8	+0.2	▲5.3	+3.1	+2.3	5.5	1.7	9.5
韓国	+2.4	▲1.9	▲1.9	+2.2	+2.9	2.0	0.7	6.1
豪州	+2.1	▲2.0	▲4.2	+1.6	+3.0	1.8	0.3	1.1
その他東南アジア	+2.6	▲1.5	▲1.4	+2.4	+2.2	1.7	4.1	7.1
ラテンアメリカ	+8.3	+2.7	▲8.1	+4.1	+3.6	4.6	8.1	11.0
アルゼンチン	+6.7	+13.4	▲11.8	+2.1	+4.9	0.7	0.6	0.1
その他南アメリカ	+8.3	+2.4	▲4.3	+2.6	+2.4	1.1	1.6	3.7
中近東北アフリカ	+0.7	+1.6	▲5.0	+3.0	+3.2	5.2	7.0	6.4
サブサハラアフリカ	+5.7	▲2.1	▲3.0	+3.2	+3.1	2.2	14.2	1.2

為替の▲はドル安：世界の為替は米国の農産物輸出



輸出品目

2021年度の米国の穀物・飼料輸出は、トウモロコシ、モロコシ、小麦、コメの単価上昇を主因に、11月時点の予想から+22億ドル増の378億ドルと予想される。とうもろこしの輸出は140億ドルと予想され、+8億ドルの増加となったが、これは数量がわずかに減少したことを単価の上昇が上回ったためである。中国への前例のない販売、日本、メキシコ、コロンビアなどの伝統的な市場への堅調な販売、北アフリカへの好調な販売など、輸出の見通しは依然として明るい。10月以降、主要なトウモロコシ輸出国の中で、米国産のトウモロコシは一般的に最も価格が低くなっている。モロコシの輸出は21億ドルと予想され、中国向けの販売と出荷が引き続き好調であることから、数量、単価ともに+6億ドルの増加。飼料・飼料の輸出は横ばいの81億ドル。小麦の輸出額は69億ドルと予想されており、主に単価の上昇により+7億ドルの増加。小麦価格は、主に中国を中心とした世界的な需要の増加と、主要な小麦輸出国の在庫が逼迫していることから上昇している。悪天候と輸出制限により、アルゼンチンとロシアからの供給がそれぞれ制限されており、価格はさらに上昇している。米の輸出額は20億ドルと予想されているが、これは内需が好調であることから、会計年度の残りの期間に予想される単価の上昇に基づき、1億ドルの増加が見込まれているためである。西半球向け輸出の増加が中東向け販売の減少によって相殺されているため、全体的にはコメの数量は横ばいである。

2021年度の油糧種子と製品の輸出額は、11月の予想から+20億ドル増の383億ドルと過去最高を更新すると予想されている。大豆は+11億ドル増の274億ドルと過去最高を更新すると予想されており、利益の大半を占めている。大豆の輸出量は、中国の需要が急増していることから記録的な水準になると予想され、米国の在庫が大幅に減少していることが価格を押し上げている。大豆粕の輸出は+7億ドル近く増加して57億ドル、大豆油の輸出は+2億ドル近く増加して12億ドルとなっているが、これは主に単価の上昇によるものである。2021年度の綿花の輸出は、11月の予想から+6億ドル増の59億ドルになると予想されているが、これは単価と数量の増加によるものである。新型コロナウイルスの影響からの回復への期待が高まっていることが、綿花工場の買い付けを促進し、価格を支えている。

2021年度の家畜、乳製品、家禽類の輸出は、乳製品の減少を牛肉、家禽類、油脂類の増加が上回り、11月の予想から+3億ドル増の326億ドルになると予想されている。牛肉は3億ドル増の74億ドルになると予想されているが、これは主に単価の上昇によるもの。豚肉は数量の減少が単価の上昇によって相殺されるため、横ばいの68億ドルと予想されている。鶏肉および鶏肉製品は、主に中国向けの鶏肉の出荷が好調であることと、予想される単価の上昇により、1億ドル増の53億ドルと予想される。乳製品の輸出は、脱脂粉乳、バター、ホエーの輸出量の増加が単価の低下で相殺されるため、▲1億ドル減の65億ドルと予想。

2021年度の園芸製品の輸出は345億ドルと11月の予想から横ばい。木の実の全粒粉と加工品は横ばいの90億ドルで、ほとんどの出荷先はヨーロッパとアジア向けである。生鮮果実・野菜は、主要市場であるカナダとメキシコ向けの出荷が安定しているため、横ばいの69億ドルとなっている。加工品の青果物はカナダ向けが安定的に出荷されており、横ばいの65億ドル。

輸出品目			
十億ドル		2020年度	シェア
1	園芸製品	33.754	24.9%
2	家畜、乳製品、家禽	31.384	23.1%
3	穀物と飼料	30.017	22.1%
4	油糧種子	27.221	20.1%
5	家畜製品	19.848	14.6%
6	大豆	17.868	13.2%
7	飼料用穀物	9.311	6.9%
8	木の実	8.538	6.3%
9	トウモロコシ	8.214	6.1%
10	飼料原料	7.976	5.9%
11	果物・野菜	6.958	5.1%
12	豚肉	6.721	5.0%
13	牛肉、子牛の肉	6.644	4.9%
14	果物野菜加工品	6.533	4.8%
15	乳製品	6.463	4.8%
16	小麦	6.258	4.6%
17	綿花	5.604	4.1%
18	砂糖と熱帯食物	5.407	4.0%
19	家禽製品	5.073	3.7%
20	大豆粕	4.461	3.3%
21	プロイラー肉	3.099	2.3%
22	コメ	1.812	1.3%
23	種子	1.645	1.2%
24	牛肉豚肉加工品	1.603	1.2%
25	大豆油	0.980	0.7%
26	革・皮革製品	0.861	0.6%
27	未加工タバコ	0.682	0.5%
合計		135.723	100.0%



輸出先

2021年度の地域別輸出見通し 2021年度の農産物輸出は、主に中国の記録的な需要に牽引され、11月時点の予測を50億ドル上回り、過去最高の1,570億ドルになると予測している。

アジア 中国の輸出見通しは、11月時点から45億ドル増の315億ドルとなり、過去最高となる。10-12月期の輸出額は、大豆、コーン、モロコシ、小麦、綿花、チキンポーの出荷が好調だったことなどから、144億ドルと歴史的な高水準に達した。これらの製品の多くの販売残は依然として高い水準にあり、トウモロコシの販売残は空前の水準となっている。香港への輸出見通しは、ナッツ、牛肉、豚肉、鶏肉製品の販売が予想を下回ったことから、11月時点の見通しから▲3億ドル下方修正し、22億ドルとした。

西半球 カナダとメキシコの輸出見通しは、それぞれ210億ドルと195億ドルで変更ない。南米への輸出見通しは+2億ドルの増加で、ベネズエラとエクアドルの間で均等に分配される。ベネズエラへの輸出は、第1四半期のコメ、とうもろこし、大豆粕の出荷が予想を上回ったため、1億ドルから4億ドルの増加となった。エクアドル向けの大豆粕の堅調な販売が、同国の予想を1億ドル上回る要因となっている。

欧州、アフリカ、中東、オセアニア EU向けの輸出は、前回予想と変わらず114億ドルを見込んでいる。

北アフリカ向けは、エジプト向けの大豆とトウモロコシの販売が好調なため、2億ドルの増加となる。

地域別輸出先			
	十億ドル	2020年度	シェア
1	アジア	58.945	43.4%
2	西半球	52.937	39.0%
3	東アジア	41.487	30.6%
4	北米	38.856	28.6%
5	東南アジア	13.388	9.9%
6	南米	6.490	4.8%
7	中近東	5.278	3.9%
8	アフリカ	4.366	3.2%
9	中米	4.208	3.1%
10	南アジア	4.070	3.0%
11	北アフリカ	2.646	1.9%
12	オセアニア	2.056	1.5%
13	旧ソ連邦12カ国	0.488	0.4%
	合計	135.723	100.0%

国別輸出先			
	十億ドル	2020年度	シェア
1	カナダ	20.801	15.3%
2	メキシコ	18.058	13.3%
3	中国	17.042	12.6%
4	EI27カ国+英国	12.139	8.9%
5	日本	11.417	8.4%
6	その他欧州	11.195	8.2%
7	韓国	7.461	5.5%
8	ベトナム	3.416	2.5%
9	カリブ海	3.383	2.5%
10	台湾	3.264	2.4%
11	フィリッピン	3.145	2.3%
12	ペルー	2.797	2.1%
13	インドネシア	2.711	2.0%
14	香港	2.295	1.7%
15	エジプト	1.761	1.3%
16	タイ	1.732	1.3%
17	インド	1.395	1.0%
18	ドミニカ共和国	1.304	1.0%
19	サウジアラビア	1.209	0.9%
20	トルコ	1.179	0.9%
21	マレーシア	1.078	0.8%
22	ベネズエラ	0.827	0.6%
23	ブラジル	0.695	0.5%
24	コロンビア	0.695	0.5%
25	ロシア	0.456	0.3%
26	ナイジェリア	0.425	0.3%
	合計	135.723	100.0%



輸入品目

2021年度の農産物輸入額は、11月時点の予想を+5億ドル上回る1,375億ドル、2020年度の輸入総額を+43億ドル上回ると予想されている。砂糖や熱帯産品、畜産・乳製品の輸入が増加すると予想されている。2021年度の園芸製品の輸入額予想は、2020年度の輸入総額を+33億ドル上回る702億ドルにとどまっている。生鮮・加工品の輸入額は、果汁単価の上昇傾向に伴い、果汁輸入量の見通しが▲20万トン減少したものの、11月の見通しと変わらない。生鮮野菜の輸入予測は変わらず、+1億トンの輸入量増加が見込まれることによる加工野菜の予測への+2億ドルの増加は、2019年度の最近の高値からナッツの輸入量が減少傾向にあることに基づくホールナッツと加工ナッツの予測▲2億ドルの減少を相殺するが、生鮮野菜の輸入予測は11月の予測と変わらない。

2021年度までの園芸用輸入量の増加予測は、2009年度以来の前年比増加の継続である。砂糖と熱帯産品の米国輸入は2021年度に233億ドルに達すると予測されており、前回予測から1億ドルの上方修正、2020年度より3億ドルの上方修正となる。甘味料とその製品の輸入は、需要が国内生産の増加を上回るため、前回予測より2億ドル増の49億ドルになると予想されている。天然ゴムの輸入は、2020年度最終四半期に好転した後の第1四半期の輸入額が予想を下回ったため、11月の予想を1億ドル下回る15億ドルになると予想されている。

家畜・乳製品・家禽類の輸入は、主に動物副産物の旺盛な需要により、+5億ドル増の183億ドルとなる。製造業者が低炭素バイオ燃料生産を支える原料を求めているため、非食用牛脂などの動物副産物の米国輸入が拡大している。牛と子牛は数量がわずかに減少したため、1億ドル減少している。乳製品の輸入は、多くの製品の予想単価が上昇したため、+1億ドルの増加となった。豚肉、牛肉、鶏肉と製品は横ばい。油糧種子と油糧製品の総輸入額の予想は、11月の予想94億ドルと変わらない。植物油の輸入額は、輸入量の減少を単価の上昇で補っているため、据え置きの見通しである。穀物・飼料製品の輸入額は2021年度の147億ドルと11月の予想から変更なし。その他の輸入は、未加工たばこの輸入量が減少したため、11月時点の予想から▲1億ドル減少する。

輸入品目			
	十億ドル	2020年度	シェア
1	園芸製品	66.875	50.2%
2	砂糖・熱帯植物	23.001	17.3%
3	家畜・家禽・乳製品	18.343	13.8%
4	穀物・飼料	14.334	10.8%
5	果物・野菜	14.048	10.5%
6	家畜・食肉	13.940	10.5%
7	新鮮野菜	9.890	7.4%
8	穀物製品	9.823	7.4%
9	油糧種子	9.240	6.9%
10	牛肉と子牛の肉	6.815	5.1%
11	ワイン	6.203	4.7%
12	コーヒーとその製品	5.983	4.5%
13	野菜加工品	5.783	4.3%
14	野菜油	5.735	4.3%
15	果物製品	5.553	4.2%
16	モルトビール	5.447	4.1%
17	甘味料	5.124	3.8%
18	ココアとその製品	4.950	3.7%
19	エッセンシャルオイル	4.064	3.1%
20	乳製品	3.638	2.7%
21	ナッツ類	2.774	2.1%
22	切り花・苗木	2.129	1.6%
23	菓子	1.908	1.4%
24	果物ジュース	1.821	1.4%
25	牛	1.700	1.3%
26	豚肉	1.473	1.1%
27	その他	1.428	1.1%
28	天然ゴム	1.269	1.0%
29	チーズ	1.174	0.9%
30	豚	0.250	0.2%
合計		133.222	100.0%



2021年度の地域別輸入見通し

西半球

西半球からの地域別輸入は、前回予想より3億ドル増の758億ドルとなる見通し。米国への農産物の海外供給量は、メキシコが引き続き最大で、カナダが2位、EU（英国を含む）が3位と僅差で推移すると予想される。

メキシコの売上高は、家畜の輸入見込みが減少したことから、11月の予想より1億ドル少ない294億ドルと予想されている。

カナダの対米農産物販売額の予想は、米国からの食肉製品輸入の上方修正により、2億ドル増の247億ドルとなる。

2021年度の南米からの輸入は、11月時点の予想から2億ドル増の150億ドルになると予想。

ブラジルからの輸入は、砂糖や甘味料の販売増が見込まれることから、前回予想より2億ドル増の150億ドルとなる見込み。

欧州 2021年度のEUからの輸入は、チーズ製品の輸入増加により、11月時点の予想から1億ドル増の246億ドルと予想。

アジア

アジアからの輸入は、インドネシアからの天然ゴム製品の減少を中国からの野菜の輸入で1億ドルの増加が見込まれているが、それを相殺しているため、2021年度のアジアからの輸入は前回予想から変わらず242億ドルと予想している。

オセアニア 食肉製品の輸入増加が見込まれるため、2021年度は前回予想から1億ドル増の65億ドルとなる。

アフリカ・中東 アフリカからの輸入は30億ドル、中東からの輸入は16億ドルと11月時点の予想を据え

輸入国			
十億ドル		2020年度	シェア
1	西半球	74.466	55.9%
2	欧州・ユーラシア	25.533	19.2%
3	アジア	22.110	16.6%
4	南米	14.613	11.0%
5	東南アジア	13.304	10.0%
6	オセアニア	6.122	4.6%
7	東アジア	5.878	4.4%
8	中米	5.725	4.3%
9	アフリカ	3.194	2.4%
10	南アジア	2.969	2.2%
11	サブサハラアフリカ	2.578	1.9%
12	中近東	1.463	1.1%
13	カリブ海	0.701	0.5%
合計		133.222	100.0%

輸入国			
十億ドル		2020年度	シェア
1	カナダ	24.022	18.0%
2	EU27カ国+英国	23.901	17.9%
3	メキシコ	20.405	15.3%
4	中国	3.654	2.7%
5	豪州	3.456	2.6%
6	ブラジル	3.234	2.4%
7	タイ	3.056	2.3%
8	インドネシア	3.010	2.3%
9	チリ	2.749	2.1%
10	ペルー	2.698	2.0%
11	コロンビア	2.682	2.0%
12	インド	2.596	1.9%
13	ニュージーランド	2.556	1.9%
14	グアテマラ	2.210	1.7%
15	ベトナム	2.096	1.6%
16	コスタリカ	1.579	1.2%
17	アルゼンチン	1.416	1.1%
18	マレーシア	1.035	0.8%
19	トルコ	0.932	0.7%
20	コートダジュール	0.876	0.7%
合計		133.222	100.0%



今後の予想

米国産大豆の輸出量は過去最大となっているが、米国産トウモロコシについても、2月25日までの週の米国産トウモロコシの輸出量は、205万トンで、1989年11月30日の週の230万トンに次いで2番目に多量となっている。この好調なトウモロコシの輸出は中国の旺盛な需要により、今後半年は続くだろうと見込まれている。上記で米国は農産物の輸入も多いことを知った。これまでは輸出の方がずっと多かったが、輸入が徐々に増えており、今年はほぼ輸出額と並ぶ金額になりつつある。最大の輸入品目は園芸品で次いで砂糖となっている。家畜や食肉の輸入も多い。米国は世界最大の農業国であると同時に巨大な胃袋でもあった。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が

発行元：



株式会社コモディティー インテリジェンス 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310
 会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692
 メールアドレス：kondo@commi.cc